

来週の市場とレート予想

	5/29(月)	5/30(火)	5/31(水)	6/1(木)	6/2(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.001%	
銀行券	+ 600	△ 1,000	△ 1,000	+ 1,000	ト ン
財政他	△ 8,300	+ 1,000	+ 1,000	△ 13,000	△ 40,000
資金需給	△ 7,700	ト ン	ト ン	不 12,000	不 40,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M) 国債発行(40年)				法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税交付金 交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △2,600 CP等買入 △500 社債等買入 △ 100 国債補完供給 + 200				成長基盤 △800
オベスタート	共通担保(全店) + 2,700 ETF買入 + 400	国債買入 + 7,500 短国買入 + 5,000	CP等買入 + 2,500		
(日本)		完全失業率(4月) 有効求人倍率(4月) 基調的なインフレ基調を 補足するための指標 (日銀)	鉱工業生産指数(4月)	日銀・原田審議委員、講演	マネタリーベース(5月) 日銀営業毎旬報告 (5月31日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額
(海外)	欧 ドラギ ECB総裁、講演	米 個人所得・支出(4月) 米 消費者信頼感指数(5月) 欧 ユーロ圏景況感指数(5月)	米 シカゴ製造業景況指数(5月) 米 中古住宅販売成約指数(4月) 米 ドラス連銀総裁、講演 米 ベージュブック 欧 ユーロ圏失業率(4月) 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (5月、速報値)	米 ADP雇用統計(5月) 米 週間新規失業保険申請件数 (5月27日終了週) 米 ISM製造業景況指数(5月) 欧 ユーロ圏製造業PMI (5月、改定値)	米 雇用統計(5月) 米 貿易統計(4月) 欧 ユーロ圏生産者物価指数 (4月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は国庫短期証券・国債発行等の要因で前週末比2兆2000億円減少の347兆300億円から始まった。国庫短期証券・国債買入オペを主因に増加し、24日には349兆円に達した。週末26日には地方債の実行などの要因を受けて350兆8000億円となった。無担保コールON物は、週初、先週末の地合いを引き継ぎ弱含んで同加重平均金利は△0.051%となった。23日には一部で+0.001%での試取の動きが見られ同金利は△0.037%(前日対比+0.014%)と上昇した。その後は△0.055%~△0.054%で推移した。無担保コールON物は、週初、先週末の地合いを引き継ぎ弱含んで同加重平均金利は△0.051%となった。ターム物では1W~1Mで△0.045%~△0.02%のレンジで出合いが見られた。4月の全国消費者物価指数は、コアCPI(除く生鮮食品)が前年同月比+0.3%と、15年4月に並ぶ2年ぶりの上昇率となった。

来週には国内で30日に完全失業率(4月)、有効求人倍率(4月)の発表、海外では31日にベージュブック、2日に米国の雇用統計(5月)の発表が予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.100 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約5,400億円で、週間償還額の約4,200億円(金融機関・ABCP除く)を上回る結果となった。25日発行や月末の前倒し発行等での発行増が期待されたものの、やや盛り上がり欠けた商状であった。発行レートについては、投資家の旺盛な運用ニーズは変わらず、ほとんどの銘柄で0.001%割れと低位横這いでの出合いであった。来週の発行市場は、週間の償還額は1兆2,000億円弱で、うち月末日遅れ落ちが約7,500億円となっている。月末日は期落ち程度の発行が予想され、活況となる見込み。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、概ね横這い推移と思われる。

<TDB>

25日に国庫短期証券3M第685回債の入札が行われ、最高落札レートは△0.1182%(前回債△0.1243%)、平均落札レートは△0.1206%(同△0.1287%)と前回債から利回りが上昇した。週末のセカンダリー市場では△0.13%程度の出合が見られた。6M、1Yは出合いは見られていない。来週は1日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初、△0.085%近辺の出合いから始まり、週央まで同水準で推移した。TDB3M・40年債の発行日となる29日受渡しでは△0.06%台まで上昇した。週末には国庫短期証券・国債買入オペが合計1兆2,500億円オファーされ、△0.07%台に小幅低下し越週した。SC取引では、5年130回債が週を通してON物・ターム物ともに△0.50%台での出合いが見られた。その他2年372・373・374・375回債、5年130・131回債、10年334・335・336・338・341・343・344・345・346回債、20年157・159・160回債、30年52・53・54回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。